

学校だより

自分も人も大切に

～思いやり

・チャレンジ

・しなやかな心～



◆◆ 6月18日、体育館にてコミュニティ・スクール学習・説明会を開催しました。 ◆◆



本校がお手本と捉えている先進校、横浜市立東山田中学校区運営協議会で、昨年度まで会長を務められた竹原和泉様を講師に迎えて、学習・説明会を開催しました。参加者は48名。長柄小学校教職員26名、南郷中教職員5名、南郷中学校運営協議会委員5名、長柄小学校関係者評価委員3名、葉桜・芝崎児童館職員2名、町内の教頭4名、葉山町教育委員会3名がそろって、写真のようなグループワークを通して、コミュニティ・スクールが抱える課題や、来年度のコミュニティ・スクールの導入に向けての不安・疑問について協議しました。

グループワークだったこと、様々な立場の参加者が集まったことで、それぞれの話し合いはかなり深まっていたように感じました。この紙面にて、質問事項と講師の回答を紹介します。

○学校評議員会と運営協議会のちがいを教えてほしい。

→学校評議員会は、校長が、必要に応じて学校運営に関して、保護者や地域の方々の意見を聞くことを目的。学校の運営に対する意見を聞くだけで良く。参考にする・しない、を含めて意見の扱いは校長の任意となる。対して、運営協議会は、保護者や地域の方々が一定の権限をもって学校運営に参画することにより、「目標やビジョン」を共有して、社会総がかりで子供たちの健全育成や学校運営の改善に取り組むことを目的としている。校長が示す学校運営の基本方針を「承認」した後は、運営協議会のメンバー自身が、その実現に責任を持って臨むことになる。運営協議会は、「説明」「言いつばなし」ではなく「協議」の場となっていく。それ故この合議体は、よく「最大の応援団」とも「辛口の友人」とも表現される。

○運営協議会（コミュニティ・スクール）って誰がどんなことをすればいいのかをもっと知りたい。

→東山田地区では、ロの字型に座り、上座・下座の概念はない。司会は運営協議会の地域の方からでもらっている。会にはファシリテーター（促進者）がいることが必要であり、重要である。学校長が会議の大半を延々としゃべっているような形にせず、参加者みなさんが語りやすいような場を促進できる方が良い。児童生徒指導の課題について、児童生徒の個々の案件を扱うときは、個人情報に配慮し、A君B君といった形で扱っている。新聞沙汰になるような案件も扱ったが、個人を特定できるような扱いはない。そのケースの概要を知った上で、運営協議会みんなで相談した結果こういった判断に至りましたと、学校の判断の後ろ盾となるような意味のある会議体として活動している。ファシリテーターとともに重要なのがコーディネーター。コーディネーターは地域を動かしていく役割で必ず入っていただく必要がある。小中一貫の話題は合同協議会で扱うが、小学校独自の課題や、中学校の部活の問題などは、小学校部会、中学校部会に分かれて話合っている。

○コミュニティ・スクールを簡単にではなく、難しく説明するとどんなものでしょうか。

→難しく説明ですか？昨年度の講演資料はお持ちだろうか。先生方の本業は、「子ども達一人ひとりに向き合うこと」だと思うが、学校は、あれも良いそれも良い（例えば国際教育が必要、人権教育が必要、環境教育が必要・・・）といった要請でメタボ状態になっている。運営協議会は、この学校でどんな子を育てるか、何を一番大切に考えるかを決めながら、スリムにして、スクラップしていくときの後ろ盾になってくれる仕組みである。学校を健康体に戻すことが出来るのが運営協議会。校長が基本方針を示したときに、議論をした上で承認に至ったゴールに対し、「では、みんなで実現していきましょう」と、英語で言う「Let'S (レッツ)」で動くのが運営協議会。オッケーではなくレッツなのが特徴である。意見具申を町にするときも、校長先生一人の具申よりも、地域全体の合議である意見具申の方がはるかに効力がある。もっと学校を良くしようというときには「辛口の友人、クリティカル・フレンド」と言われる。コミュニティ・スクールになると学校の景色がすぐに変わると思うのは間違いである。コミュニティ・スクールは「漢方薬」。じわじわと効いてくると考えてほしい。そして、「ぬか床」とも言えるものである。常にかき混ぜて新しい空気を入れてあげることも重要である。

○コミュニティ・スクールの成果についての文科省報告によると、子どもと向き合う時間が増えた教員が25%とあるが、逆に言えば、75%の人が負担増だったのではないかと？

→手応えが出てくるのには時間がかかるが、25%の人が増えたと答えたのは大きな成果だと思う。逆読みして75%が負担増になったとは考えられない。負担がかかったとする人はほぼ0%。負担感が減って楽になる。仕事量が減るよりは、負担感が減る。東山田地区の学校では若手の先生から通知表についての困り感を運営協議会が肩代わりして解決したり、4年生で始まった泊まりがけ行事をスクラップの意味を考え日帰り行事に戻したりした。ある先生の決断でスクラップを決めたとなると必ずハレーションは起こる。学校運営協議会が機能する(肩代わり)ことで、健康体の学校になっていく。

○文科省の要請が相次ぐ中、なぜ努力義務なのに、今やらなければならないのか疑問に感じる。

→今までは努力義務のところを、義務化にしようとする流れもあるが、その判断は難しいと感じてはいる。義務化をすればなんちゃってコミュニティ・スクールが増えることを招く。それはお荷物にしかならない。だからそれはだめだと私は思っている。努力義務にしている意味は、先生方が本来の働き方・使命を全うしてほしいからである。自分は子どもをアメリカの現地校で6年間育てたが、アメリカの学校は事務職員がすごく多い。校長先生に秘書がいたり、出欠席を司る担当者がいたり、先生以外のスタッフが多い。その仕組みを直輸入は出来ないが、先生方が何でもこなしている状態を解決する方法になるかも知れない。ICTだって、学校だけで解決できるものではなく、社会の力を活用することも楽に繋がっていく。本来の学校に戻していくのに必要な解決方法だからこそ、今取り組むことが求められているのだと考える。先生方には、是非忙しくても研修は短い時間でも良いから続けてほしい。コロナの時期だからこそ、学校が出来ること、地域が出来ることを明確にしていってほしいと考える。

○人事については横須賀では扱わない情報が入っているが、見解を聞きたい。

→(学校教育課長が答弁)設置要綱では扱うことが明記されているが、葉山町のサイズ感はよく理解している。だからこそ、個人指名的な扱いを導入していくつもりはない。もっと大きな枠で、男女比や年齢構成等に関する要請などを扱う程度と考えてほしい旨主旨は委員に伝えている。

○コミュニティ・スクールが始まった南郷中学校でもまだ何をやっていくかも決まっていないう状態だと聞いているのに、長柄でも始めるのは如何なものか？一旦始めれば後には戻れない。しっかりと準備した方が良いのではないかと。スピード感が気になる。東山田地区はどれくらいの準備期間を要したか聞きたい。

→東山田中は、新設校で平成17年の開校時に訳も分からずスタートした。スタート時はこれでいいのか悩んだりした。じわじわわかってきたことは、やって良かったこと。子どもの変化を見て納得がいった。やって1年2年で見えることではない。漢方薬だと思う。様子を見て納得感がいくのはどこまでいったらいいのか分からない。同様に、東日本大震災に見舞われた港のある漁師町でコミュニティ・スクール化の支援をしたとき、現地の指導主事に「竹原さん、コミュニティ・スクールなんて出来っこないよ」と言われたが、コーディネータ研修を進め運営協議会を作った結果、その指導主事が全国の発表でコミュニティ・スクールにして良かったと伝えていた。是非運営協議会委員で納得して本物の学校運営協議会をつくってほしい。ちなみに、学校運営協議会があると、被災時に先生方が避難所運営に関わらないですむ様な運営が出来る。運営協議会だから地域に対して頼めることもある。学校を守る、子どもを守る視点で考えてほしい。

○コミュニティ・スクールが廃止された例はあるのでしょうか。

→東京で一つ思い当たる学校がある。全国で初めて学校運営協議会が設置された学校で、運営協議会の委員が力を持ちすぎて方向が間違ってしまった学校だった。結局、廃校にして別の形で生まれ変わった。

○益田校長が掲げている4つの取り組みの視点があげられているが、同時並行で進めることは出来るものなのでしょうか。

→学校運営協議会は学校のガバナンスを守るのが役目だが、何をしなければならないといった縛りはない。増やす必要は何も無い。みんなで協議して手をつけると決めたことに集中すればいい。

○運営協議会の委員間で意見が対立する場面はないのでしょうか。

→もちろん個人個人の考え方は違うので、1対1で話すと違う場合がある。そうすると声の大きい人の意見が通るケースに陥りかねない。でもワークショップ形式でみんなで考えていくと声の大きな委員の意見に対抗できる合意を引き出すことが出来る。サイレントマジョリティの意見が反映していけるよう工夫してほしい。



【総括助言】

持続可能性を持つため、仕組みを残すことが大切。

どんないい人が押し寄せてきても、どんなに良いことでも、どんなに熱意のある人が来ても 本心に学校が必要なことをジャッジしてほしい。是非人に因らない仕組みとして確立して欲しい。

<とても有意義な話し合いを持てた学習説明会となりました。竹原先生には心より感謝申し上げます。>